

学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るとい目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な研究的知識の習得が大学入学資格取得で図られることが前提になっており、そうした点を克服するため、職業実践的学習者を含めた高大接続改革を進める。

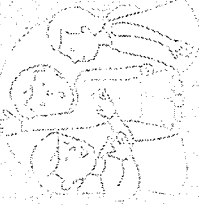
「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に
見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に
自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に



実際の社会や生活で生きて働く

未知の状況にも対応できる

知識及び技能

思考力、判断力、表現力など

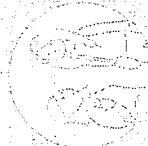
カリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を常に検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく育みます。**

新たに取り組み組むこと、これからも重視することは？

下記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。

プログラミング教育

コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、学習します。

道徳教育

自分ごととして「考え、議論する」授業などを通じて道徳性を育みます。

言語能力の育成

国語を要として全ての教科等で子供たちの言葉の力を育みます。

理数教育

観察、実験などによる科学的に探究する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

伝統や文化に関する教育

我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学びます。

主権者教育

社会の中で自立し、他者と連携、協働して社会に参画する力を育みます。

消費者教育

自立した消費者を育むため、契約の重要性や消費者の権利と責任などについて学習します。

子供たちが学ぶ教科等とは？

大学が新設・変更部分です。その他の教科等についても、育成を目指す資質・能力を明確にして、授業を改善します。

幼児期の教育

遊びや生活の中で生きる力の基礎を指します。

小学校

国語・社会(3~6年)・算数・理科(3~6年)・生活(1,2年)・外国語(5,6年)
音楽・図画工作・家庭(5,6年)・体育
特別の教科 道徳
外国語活動(3,4年)
総合的な学習の時間(3~6年)
特別活動

中学校

国語・社会・理科・音楽
美術・保健体育・技術・家庭・外国語
特別の教科 道徳
総合的な学習の時間
特別活動

高等学校

各学科に共通する各教科等
国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育
芸術・外国語・家庭・情報・理数
総合的な学習の時間
探究の時間
特別活動

主として専門学科において開設される各教科
音楽・芸術・工業・商業・農業・家庭・福祉・英語
体育



特別支援学校 小学校

特別支援学校 小学校

特別支援学校 中学校

特別支援学校 高等学校

特別支援教育 幼児期から高等学校段階まで、全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。